

さとうきび増産に向けた取組の実績及び評価

沖縄県伊江島

増産プロジェクトにおける令和4年産生産計画の達成状況及び今後の取組状況													
生産計画の達成状況等	1 令和4年産の生産実績												
		収穫面積 (ha)				単収 (kg/10a)				生産量 (t)			
		夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計
	H27年産実績	71	0	6	77	7,491	2,935	3,981	7,206	5,318	14	225	5,557
	H28年産実績	78	-	11	89	7,948	-	5,163	7,613	6,208	-	552	6,760
	H29年産実績	59	1	18	78	7,200	2,058	3,054	6,180	4,234	14	559	4,806
	H30年産実績	54	-	14	68	7,390	-	4,400	6,781	4,007	-	610	4,617
	R元年産実績	48	-	24	72	8,239	-	4,882	7,137	3,982	-	1,154	5,136
	R2年産実績	51	-	29	81	8,148	-	4,808	6,939	4,194	-	1,405	5,599
	R3年産実績	51	-	30	80	8,148	-	5,087	7,017	4,135	-	1,513	5,647
	R4年増産計画	70	3	15	88	6,500	3,000	4,000	6,000	4,550	90	600	5,280
	R4年増産実績	67	-	23	90	8,800	-	6,196	8,081	5,875	-	1,398	7,273
	(対計画比%)	(95.7)	(0.0)	(153.3)	(102.3)	(135.4)	(0.0)	(154.9)	(134.7)	(129.1)	(0.0)	(233.0)	(137.7)
	(対前年比%)	(132.0)	(0.0)	(77.4)	(111.8)	(108.0)	(0.0)	(121.8)	(115.2)	(142.1)	(0.0)	(92.4)	(128.8)
2 その他指標の動向 令和3年産→令和4年産													
・株出栽培の割合		36.9%	→	25.6%	・さとうきび作農家戸数		144戸	→	156戸				
・平均糖度		14.1度	→	14.8度									

増産目標に対する位置づけ	<p>令和4年産 生産計画及び実績については、以下のとおりであった</p> <table border="1" data-bbox="562 204 1164 300"> <thead> <tr> <th></th> <th>収穫面積</th> <th>単収</th> <th>生産量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(計画)</td> <td>88ha</td> <td>6,000kg/10a</td> <td>5,280t</td> </tr> <tr> <td>(実績)</td> <td>90ha</td> <td>8,081kg/10a</td> <td>7,273t</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和4年度生産実績は、収穫面積89.3ha(計画比105.05%)、単収8,142kg/10a(計画比131.32%)、生産量7,273t(計画比136.58%)であった。生育初期から旺盛期にかけて、風水害による被害はほとんど無く気象条件にも恵まれ、更には関係機関による薬剤の共同購入を行い一斉防除の実施、生産農家の適正な肥培管理など単収及び生産量において計画値を上回る結果となった。 今後も引き続き薬剤の一斉防除の実施や農業用水を活用した肥培管理の徹底、伊江村堆肥センターの堆肥利用を促進し、単収向上を推進していく。</p>		収穫面積	単収	生産量	(計画)	88ha	6,000kg/10a	5,280t	(実績)	90ha	8,081kg/10a	7,273t
	収穫面積	単収	生産量										
(計画)	88ha	6,000kg/10a	5,280t										
(実績)	90ha	8,081kg/10a	7,273t										
課題	<p>① 農家の高齢化が進行していることに伴い、安定的な生産の維持に向けた機械化や、植付・収穫等の受託の検討が必要</p> <p>② 生産農家に周知し、土づくりに関する知識の向上に努める</p> <p>③ 干ばつ時はバッタの異常発生により大きな被害を招くことから対策が必要</p>												
令和5年産における取組方針	<p>主なさとうきび生産振興策として</p> <p>① 農家の高齢化が進行していることに伴い、安定的な生産の維持に向けた機械化や、植付・収穫等の受託の検討が必要</p> <p>② 堆肥投入や緑肥作物による勉強会等を実施し、土づくり及び地力の増進を図る</p> <p>③ 適期の病害虫防除を啓発・推進し、補助事業等を活用した支援を検討する</p>												

(1)経営基盤の強化

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																																						
①効率的な さとうきび経営 の育成と労働 力の確保	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫機械を活用した結果、農家の労働時間の短縮を図ることができた ・薬剤配布時にハーベスター活用に伴う畝幅作りや肥培管理等を周知し、より良い生育となるよう努めた ・製糖期の村外工場等従業員を確保できる宿舎を整備したことで、雇用人数を確保し収穫・工場搬入受入体制を構築し、安定運営に繋がった <p>【目標の達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定農業者</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>農業法人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さとうきびは、葉たばこや野菜等との複合経営で生産を行っているため、一戸当たりの生産面積が少ない ・新たな認定農業者及び受託組織等の育成 ・収穫機械に活用に頼り、畑の管理について疎かになっている圃場がある ・働き方改革により3交代制で運用を行っているが、勤務時間が2交代制時と比較し短縮されるため村外従業員の応募が減少傾向にある 		H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	認定農業者	3	1	1	1	-	1	3	3	農業法人	-	-	-	-	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・輪作により農家の経営安定化を図る ・中核的な担い手である認定農業者への農地集積を図る ・ハーベスター収穫に合う畝幅や管理について、農家が統一した管理が行えるよう引き続き周知・指導を行う ・村内外からの従業員について、必要人員を確保できるよう周知・募集を行い、引き続き安定した製糖期の運営を図る 																											
	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4																																																
認定農業者	3	1	1	1	-	1	3	3																																																
農業法人	-	-	-	-	-	-	-	-																																																
②農業共済制 度への加入 促進	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤配布や圃場確認時など、必要に応じて生産農家へ制度の説明、加入促進を行った <p>【目標の達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27 (28年産)</th> <th>H28 (29年産)</th> <th>H29 (30年産)</th> <th>H30 (R元年産)</th> <th>R元 (R2年産)</th> <th>R2 (R3年産)</th> <th>R3 (R4年産)</th> <th>R4 (R5年産)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加入戸数 (戸)</td> <td>136</td> <td>113</td> <td>73</td> <td>69</td> <td>65</td> <td>63</td> <td>62</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>戸数引受率 (%)</td> <td>87.2</td> <td>76.9</td> <td>59.8</td> <td>55.2</td> <td>47.4</td> <td>47.7</td> <td>47.3</td> <td>43.2</td> </tr> <tr> <td>引受面積 (ha)</td> <td>76</td> <td>56</td> <td>39</td> <td>36</td> <td>42</td> <td>41</td> <td>43</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>面積引受率 (%)</td> <td>86.9</td> <td>73.2</td> <td>57.5</td> <td>51.1</td> <td>53.3</td> <td>51.7</td> <td>57.5</td> <td>51.6</td> </tr> <tr> <td>共済金額 (千円)</td> <td>69,232</td> <td>49,305</td> <td>39,053</td> <td>37,485</td> <td>46,749</td> <td>47,206</td> <td>35,318</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <p>注) R4、R5年産の数値については概算値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共済加入率の増加に向けて、製糖終了報告会やさとうきび生産組合の会議等に合わせて、関係機関(農業共済組合やJA等)と連携し加入を推進する必要がある 		H27 (28年産)	H28 (29年産)	H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	加入戸数 (戸)	136	113	73	69	65	63	62	57	戸数引受率 (%)	87.2	76.9	59.8	55.2	47.4	47.7	47.3	43.2	引受面積 (ha)	76	56	39	36	42	41	43	41	面積引受率 (%)	86.9	73.2	57.5	51.1	53.3	51.7	57.5	51.6	共済金額 (千円)	69,232	49,305	39,053	37,485	46,749	47,206	35,318	-	<ul style="list-style-type: none"> ・共済制度の周知並びに理解を得るため、生産組合を対象にした共済制度説明会等を開催し引受促進に努める ・さとうきび増産プロジェクト会議や生産組合の活動等に参加し、構成員であるJAや生産組合等と連携し、加入促進を図る
	H27 (28年産)	H28 (29年産)	H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)																																																
加入戸数 (戸)	136	113	73	69	65	63	62	57																																																
戸数引受率 (%)	87.2	76.9	59.8	55.2	47.4	47.7	47.3	43.2																																																
引受面積 (ha)	76	56	39	36	42	41	43	41																																																
面積引受率 (%)	86.9	73.2	57.5	51.1	53.3	51.7	57.5	51.6																																																
共済金額 (千円)	69,232	49,305	39,053	37,485	46,749	47,206	35,318	-																																																

(2)生産基盤の強化

項目	取組実績及び課題								今後の取組方向	
①気象災害に強い生産基盤の整備	【実施した取組】								<ul style="list-style-type: none"> ・かんがい整備事業を推進するとともに、農家が活用するよう周知を図る ・農地防風林や保安林の整備を行う 	
	【目標の達成状況】 (単位:%)									
		H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績		R4 見込
	ほ場整備率	20.6	20.6	20.6	20.6	20.6	20.6	20.6		21.5
	水源整備率	35.5	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8		97.7
畑地かんがい整備率	55.7	57.2	58.6	59.6	64.0	70.6	72.2	75.0		
【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・台風等の被害を最小限にとどめるための農地防風林、保安林の整備を行うため関係機関と連携す ・干ばつの被害に対応するため、水源及び畑地かんがい整備の活用 										

<p>②機械化一貫体系の確立</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小型ハーベスター(3機)の活用により、農家の作業負担軽減及び効率化を図ることができた <p>【目標の達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="589 300 1373 730"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>脱葉機 稼働台数</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>18</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>脱葉機 処理面積</td> <td>20</td> <td>19</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>脱葉機 処理率(面積)</td> <td>26.2</td> <td>19.1</td> <td>14.8</td> <td>12.9</td> <td>11.7</td> <td>5.0</td> <td>3.8</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 稼働台数</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 収穫面積</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>20</td> <td>26</td> <td>39</td> <td>53</td> <td>55</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 収穫率(面積)</td> <td>4.0</td> <td>23.0</td> <td>25.7</td> <td>38.0</td> <td>54.7</td> <td>65.5</td> <td>68.8</td> <td>75.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の高齢化が進行していることに伴い、安定的な生産の維持に向けた機械化や、植付・収穫等の受託の検討が必要 ・現在の機械作業を担うオペレーターの高齢化や村外からの応援で行っており、安定的な運用を行うため早めのオペレーター確保及び育成が必要 		H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	脱葉機 稼働台数	19	20	18	12	11	6	4	0	脱葉機 処理面積	20	19	12	9	8	4	3	0	脱葉機 処理率(面積)	26.2	19.1	14.8	12.9	11.7	5.0	3.8	0.0		H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	ハーベスタ 稼働台数	1	1	1	2	3	4	3	3	ハーベスタ 収穫面積	3	2	20	26	39	53	55	68	ハーベスタ 収穫率(面積)	4.0	23.0	25.7	38.0	54.7	65.5	68.8	75.7	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関(JA等)と協議し、農業生産法人等の受託組織団体結成を図るとともにオペレーターの確保及び育成に努める ・植付・肥培管理作業機(ビレットプランター)等の導入に向けた関係機関との調整等(オペレーターの確保及び育成を含む) ・オペレーター研修会(県主催等)に参加し、オペレーターの技能や適正な取り扱い方法を習得する
	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4																																																																		
脱葉機 稼働台数	19	20	18	12	11	6	4	0																																																																		
脱葉機 処理面積	20	19	12	9	8	4	3	0																																																																		
脱葉機 処理率(面積)	26.2	19.1	14.8	12.9	11.7	5.0	3.8	0.0																																																																		
	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4																																																																		
ハーベスタ 稼働台数	1	1	1	2	3	4	3	3																																																																		
ハーベスタ 収穫面積	3	2	20	26	39	53	55	68																																																																		
ハーベスタ 収穫率(面積)	4.0	23.0	25.7	38.0	54.7	65.5	68.8	75.7																																																																		
<p>③地力の増進</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊江村黒糖工場において、バガス等を活用し有機物の畑地還元を努めた ・葉たばこ等との輪作体系を行うことにより、地力増進を推進した <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土づくりに関する知識の向上 ・緑肥作物栽培による土づくりの普及・促進 ・土壌分析装置等を活用し、土壌の分析を行い土づくりの現状把握及び普及・促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・堆肥投入や緑肥作物による勉強会等を実施し、土づくり及び地力の増進を図る ・土壌分析装置等の活用について、農家への周知し分析を行い、土づくりの普及・促進、必要施肥量の把握を行う 																																																																								

(3)技術対策

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																																						
①病虫害対策	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA、役場、さとうきび農家で薬剤を共同購入(プレバゾン・野ソ剤)し、病虫害一斉防除の実施に努めた <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・干ばつ時はバツタの異常発生により大きな被害を招くことから対策が必要 ・メイチュウ類の発生が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・適期の病虫害防除を啓発・推進し、補助事業等を活用した支援を検討する ・耐病性品種の導入について継続的に検討する 																																																						
②優良品種の選択・普及	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種苗管理センターからの無病健全な優良種苗の導入、原苗ほ設置による優良品種の普及に努めた ・優良品種の普及について周知を行い、生産農家へ配布を行った <p>【目標の達成状況】 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27 (実績)</th> <th>H28 (実績)</th> <th>H29 (実績)</th> <th>H30 (実績)</th> <th>R元 (実績)</th> <th>R2 (実績)</th> <th>R3 (実績)</th> <th>R4 (実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農林9号</td> <td>22.1</td> <td>14.6</td> <td>6.4</td> <td>4.4</td> <td>-</td> <td>2.0</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>農林8号</td> <td>10.4</td> <td>10.1</td> <td>3.8</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>農林15号</td> <td>11.7</td> <td>4.5</td> <td>3.8</td> <td>1.5</td> <td>2.8</td> <td>3.9</td> <td>2.5</td> <td>1.1</td> </tr> <tr> <td>農林22号</td> <td>1.3</td> <td>1.1</td> <td>1.3</td> <td>1.5</td> <td>15.3</td> <td>25.5</td> <td>35.0</td> <td>51.7</td> </tr> <tr> <td>農林27号</td> <td>50.6</td> <td>60.7</td> <td>70.5</td> <td>77.9</td> <td>68.1</td> <td>56.9</td> <td>46.3</td> <td>33.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無病健全な優良種苗を普及するため、引き続き周知及び配布を行う必要がある(自ら種苗を準備する農家もいる) ・機械収穫等にあつた品種(農林22号等)の選定及び普及 		H27 (実績)	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	農林9号	22.1	14.6	6.4	4.4	-	2.0	-	-	農林8号	10.4	10.1	3.8	-	-	-	-	-	農林15号	11.7	4.5	3.8	1.5	2.8	3.9	2.5	1.1	農林22号	1.3	1.1	1.3	1.5	15.3	25.5	35.0	51.7	農林27号	50.6	60.7	70.5	77.9	68.1	56.9	46.3	33.7	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関による種苗供給を推進 ・機械収穫等に適した品種の選定 ・様々な品種を取り入れるため、展示ほの設置を行い、生育に合う品種を検討する
	H27 (実績)	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)																																																
農林9号	22.1	14.6	6.4	4.4	-	2.0	-	-																																																
農林8号	10.4	10.1	3.8	-	-	-	-	-																																																
農林15号	11.7	4.5	3.8	1.5	2.8	3.9	2.5	1.1																																																
農林22号	1.3	1.1	1.3	1.5	15.3	25.5	35.0	51.7																																																
農林27号	50.6	60.7	70.5	77.9	68.1	56.9	46.3	33.7																																																
③栽培技術の普及等	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産性及び品質向上に向けた適期肥培管理の指導を実施した ・かん水の利用について推進した <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産農家への適期肥培管理(株出管理作業等)の指導を引き続き行う必要がある ・かん水の利用について推進した 	<ul style="list-style-type: none"> ・株出について適期栽培管理の指導強化を図る ・かん水方法、適期かん水利用の推進を図る ・基本的栽培技術の周知・徹底を図る 																																																						